

(仮訳) 仏語原文は、後ろにあります。

新型インフルエンザ

個人・家庭のための手引き

2009年 7月

ジュネーブ州 経済 保健省

この手引きは、スイスやジュネーブ州で新型インフルエンザのパンデミック (感染大流行) が起きた際の危険につきよりよく理解していただくためのもので、パンデミックに備えるために一人一人が取れる正しい行動につきお知らせするものです。

パンデミックの際に起こり得る事態を、また、こうした事態を抑えるための具体的な行動についても、皆が知っておく必要があります。

新型インフルエンザ = 知っておくべきこと

パンデミック (感染大流行) は人々がいまだ遭遇したことのない新たなインフルエンザウイルスが出現したときに突如として起こり、地球全域に及びます。これに対し、通常の季節性インフルエンザは人類の大部分は既に経験しているウイルスにより引き起こされ、ワクチンも存在しており、社会に及ぼす影響もより軽いものとなります。新型インフルエンザは人から人へと容易に伝染します。誰もこの新しいウイルスへの免疫は持っていないために、誰でもが罹り得ます。

通常の季節性インフルエンザと同じように、たいていの場合は症状は重くなく治療しなくても快復するでしょうが、特に体が弱い人々 (慢性病患者、妊婦、小児など) の場合には、重くなることがあります。

パンデミック (感染大流行) は、次々と波状的に到来し、1回の波は数ヶ月にも及びます。また、感染者の大量発生が起き得るので、日常生活が混乱することともなりかねません。現在のところウイルスの毒性は比較的弱いのですが、これが突然変異して強毒性のものになってしまう可能性があります。

季節性インフルエンザと新型インフルエンザの違い。

季節性インフルエンザ	新型インフルエンザ
過去既に流行し人間が感染したことがあるインフルエンザウイルスに類似したウイルスにより引き起こされる。	未だかつて人間が感染したことがない新種のウイルスにより引き起こされる。 免疫を持っている人はいないので、相当数の患者また死者が発生してしまう。
・症状： 発熱、咳、風邪の諸症状、関節・手足が痛い・だるい 肺炎等との併発で死に至ることも。	・症状： 季節性インフルエンザのものに類似。 ただし、より重い。 消化器障害（嘔吐・下痢など）も。
・罹りやすい人たち： 小児、高齢者、 他のある種の病気を持っている人	・罹りやすい人たち： しばしば子供と青年、 妊婦、慢性病患者では重症にも。
通常、社会への影響は少ない。	・重度のパンデミックの場合は、一定期間、日常生活への影響も： 感染発生が起きた学校や職場の閉鎖、 さらに公共交通機関の麻痺。

予防

症状を知っておいてください。

新型インフルエンザ A H1N1型の症状は、通常の季節性インフルエンザのものに似ており、例えば、発熱、悪寒、咳、喉の痛み、風邪の諸症状、筋肉が痛い・だるい、頭痛、倦怠感などです。人によっては、吐き気、嘔吐、下痢も起こります。

症状は一週間あるいはそれ以上に及びます。罹ってしまった場合は自宅に留まり、あなたの世話をする人以外の人への接触は避けなければなりません。医師のところに行くために外出する場合には、マスクをするか、または少なくとも咳やくしゃみのときはティ

ティッシュで口と鼻を覆うかしなければなりません。他の人たちから1メートル以上離れることで、ウイルスが拡がっていかないようにします。症状が出た日の前日から7日間は、感染者は他の人に伝染させかねません。感染者が子供の場合には、この期間はさらに長くなります。

病人についての注意。

病人は外出を控え自宅に留まりますが、伝染の危険性を抑えるために次のことを守る必要があります。

病人は他の人たちからは離れたところ、できるかぎり別の部屋にいる。

定期的に、病人の部屋の風通しをする。

病人は、できるだけ自分の部屋に留まり家人との接触を少なくする。

病人とのキスや握手はしない。

病人と他の人が一緒にいるときは、マスク (masque de soins) をする。マスクが湿ったらこれを捨て新しいものと取り替える。

病人は咳やくしゃみのときはティッシュなどで口を覆う。

ティッシュは毎回使用後内側に袋を付けたごみ箱に捨てる。

石鹸と流水でできるだけ頻繁に、特に、鼻をかんだ後、くしゃみ、咳の後は手を洗う。

病人が子供でマスクをすることができないときは、その子供に近づく人がマスクをする。

病人がいる部屋には、ティッシュとごみ箱を置いておく。

病人の周囲にいる人への注意

【病人との接触・面会】

できれば、世話をする人と病人との接触は少なくする。

病人への面会は必要最小限に抑える。

病人とのキスや握手はしない。

15歳以下の子供、慢性病患者、免疫低下の人、妊婦は病人との接触は避ける。

病人と面会者の両方がマスクをする。

病人、病人が使った物、病人の持ち物、病人が接触した物 (扉の取手、家具、水洗便所のレバーなど) に触れたら、その都度、手は石鹸と流水で洗い衛生的に保つ。

【病人が使った物の清掃】

石鹸と熱い湯で洗浄する。

家族内で、ナプキン、ナイフ・フォーク類、タオル類、シーツ類、衣類などを病人と共用しない。

病人の食器、タオル類、シーツ類、衣類などは他の家族の物といっしょに洗ってもよい。

【病人の容態が悪化したら】

至急、かかりつけ医 (medecin traitant) に通報しなければならない。

良好な衛生状態を保つことが重要。

ウイルスの伝染を抑えるため、次のような基本的な衛生の心得を守ってください。

頻繁に、石鹸と流水で手洗いをする。

咳やくしゃみをするときは、ティッシュ(または曲げた肘で)口と鼻を覆う

使用したティッシュはごみ箱に捨てる。

咳・くしゃみの後は、流水と石鹸またはアルコール溶剤で手を洗う。

罹ったときは、外出せず家の中にいる。

情報を入手してください。

新型インフルエンザの最新状況を知っておくことが、最良の備えです。信頼できる情報源を確認しておいてください。パンデミックの際には、確かな最新情報を得ていることが重要になります。

www.ge.ch/pandemie ジュネーブ州政府保健局

www.pandemia.ch 031-322-21-00 スイス連邦保健庁

ラジオ、テレビ、新聞その他

かかりつけ医、また地方保健当局 (ジュネーブ州保健総局 022-546-50-40) への相談

治療について

ワクチン

特定されたインフルエンザ・ウイルス株に対しては、型が合致したワクチンは防御となります。新型インフルエンザに対するワクチンは、この新しいインフルエンザのウイルスが実際に出現し型が特定されない限りは、製造することができません。新しい型のインフルエンザのウイルスが特定された後も、検査と生産のため最低 6ヶ月の期間を必要とします。

スイス国内にはこのようなワクチンを生産できる工業施設がないので、スイス政府は製造企業との間で、ワクチンが完成し次第、スイス政府が国内全住民への接種に十分な備蓄を行えるように保証する契約を結びました。

通常の季節性インフルエンザのワクチンは、新型インフルエンザへの防御となるか。

なりません。

既存のワクチンは、通常の季節性インフルエンザへの防御です。65歳以上の人、また慢性疾患のある人は、新型インフルエンザによる合併症を避けるために、肺炎に備えワクチン接種を受けてください。主治医に相談して、個々人に合った助言を得てください。あなた自身と家族のワクチンが適切なものとなっているか確認してください。

抗ウイルス治療

ある種の抗ウイルス剤はインフルエンザの治療に効果があります。こうした薬剤は、ウイルスにさらされる危険性の高い人々の感染予防を助け、また、感染してしまった人々の症状期間を短くできます。

スイス連邦は、全住民の25%ならびに患者に接触しながらその医療に従事する人々を治療するのに十分な量の抗ウイルス剤を、備蓄しています。

パンデミックの際には、各州は、州内の患者を治療するために十分な備蓄割当量を連邦から受け取ります。

質問 答え

新型インフルエンザのウイルスはどのように伝染していくのか。

現在のところ、専門家は、このウイルスは季節性インフルエンザのウイルスと同じ経路で伝染するものと考えています。

インフルエンザのウイルスは、人から人へと、感染者が話す時に飛ぶ唾そして咳・くしゃみをする時の飛沫により伝染します。また、例えば台所道具など様々な物、多くの人が触る扉のノブなどを介する間接的な伝染も起こり得ます。

新型インフルエンザのウイルスから身を守るには、

今現在、新型インフルエンザからの予防のためのいかなるワクチンも存在しません。しかしながら、いくつかの簡単な行為で伝染を抑えることができます。

鼻をかむ時、咳・くしゃみの時には、鼻と口をティッシュで覆うこと。

頻繁に、流水と石鹸で手洗いすること。

目や鼻の粘膜に触ることは、ウイルス感染を招くので避ける。

感染者との至近距離での接触は避ける。

罹ったら 家から出ない。
保健当局からの情報には注意し、これに従う。

罹った場合、どうすればよいか。

新型インフルエンザ感染が確認されている地域に滞在していた場合、そしてインフルエンザの症状 (前記参照)がある場合、家から外出せず先ず電話であなたのかかりつけ医に連絡を取ってください。その後どうするか、医師が指示します。

過去の歴史から

20世紀には3回の新型インフルエンザの世界的大流行がありました。そのいずれも世界全体及び、全く新たなウイルスによって引き起こされました。1918年のもの(「スペインかぜ」)は、特に酷いものでした。一方、1968年のもの(「香港かぜ」)は、より致死性が低いものでした。

1918 - 1919	最も深刻 = 全世界で4千万人が死亡。
1957 - 1958	真ん中 = 全世界で2百万人が死亡。
1968 - 1969	最も軽い = 全世界で1百万人が死亡。

新型インフルエンザの世界的流行は、いつ発生するのか、また、それはどの程度深刻なものとなるのかについては、予言することはできません。

21世紀になって出現した最初の新型インフルエンザが、A H1N1型です。

追加情報

州政府保健局 HP = www.ge.ch/pandemie

州政府新型インフルエンザ・ホットライン = 022-546-50-40



Pandémie de grippe

Guide pour les particuliers et les familles

Ce guide a pour objectif de vous aider à comprendre le risque que représente la survenue d'une pandémie de grippe dans notre pays ou canton. Il présente les actions de bon sens qui peuvent être prises dans le cadre d'une préparation individuelle à une pandémie.

Chacun, chaque famille, devrait connaître à la fois les conséquences possibles d'une pandémie et à la fois les actions concrètes qui peuvent être entreprises pour les limiter.

Pandémie de grippe: ce que vous devez savoir

Une pandémie de grippe est une épidémie qui touche l'ensemble de la planète et qui survient lorsqu'un nouveau virus grippal auquel la population n'a encore jamais été exposée apparaît.

Par opposition, les épidémies de grippe saisonnière sont causées par des virus auxquels la plus grande partie de la population a déjà été exposée. Des vaccins anti-grippaux sont disponibles et les conséquences sur la société sont moins importantes.

Une grippe pandémique se transmet facilement de personne à personne. L'ensemble de la population peut tomber malade car elle n'a pas d'immunité contre ce nouveau virus.

La maladie peut être sans gravité et guérie sans traitement comme la grippe saisonnière. Toutefois, elle peut être grave, en particulier chez les personnes fragiles: celles souffrant de maladies chroniques, les femmes enceintes et les petits enfants.

Une pandémie peut survenir et se propager par vagues successives, qui peuvent durer plusieurs mois. La vie quotidienne peut se trouver bouleversée en raison du grand nombre de personnes malades en même temps ou susceptibles de l'être.

A ce jour, le virus pandémique qui circule est relativement bénin. Il pourrait toutefois muter et devenir plus agressif.

Quelques différences entre la grippe saisonnière et la grippe pandémique

Grippe saisonnière	Grippe pandémique
Causée par des virus Influenza similaires à ceux ayant déjà circulés et infectés des gens	Causée par un virus Influenza nouveau auquel les gens n'ont encore jamais été exposés et contre lequel ils n'ont pas d'immunité. En raison de cette absence d'immunité, il faut s'attendre à un plus grand nombre de malades et de morts.
Les symptômes sont les suivants: fièvre, toux, rhume et douleurs dans les articulations et membres. Des complications comme la pneumonie peuvent mener au décès.	Les symptômes sont similaires à ceux de la grippe saisonnière, mais peuvent être plus sévères. Certains malades présentent des troubles digestifs tels que vomissements et diarrhées.
Les personnes à risque sont les jeunes enfants, les personnes âgées et les personnes souffrant de certaines pathologies.	Les enfants et les jeunes adultes sont souvent atteints. Les femmes enceintes, les jeunes enfants, et les personnes souffrant de maladies chroniques peuvent présenter des formes graves de maladie.
Généralement, l'impact sur la société est faible.	Une pandémie sévère pourrait changer les modes de vie pour un temps donné (fermeture d'une école ou d'une entreprise particulièrement touchée ou encore perturbation des transports publics).

Prévention

Reconnaître les symptômes de la grippe

Les symptômes du nouveau virus A H1N1 sont similaires à ceux de la grippe saisonnière, à savoir: fièvre, frissons, toux, maux de gorge, rhume, douleurs musculaires, maux de tête, et fatigue. Certains malades souffrent également de nausées, vomissements et diarrhées.

Si vous avez la grippe vous risquez d'être malade pendant une semaine ou plus. Vous devez rester chez vous et éviter les contacts avec les autres personnes, excepté le personnel soignant. Si vous quittez votre domicile pour vous rendre chez le médecin, vous devez porter un masque ou, au minimum couvrir votre bouche et votre nez avec un mouchoir jetable lors de toux et éternuements.

En restant à distance (plus d'un mètre) des autres personnes, vous contribuez à éviter la propagation du virus.

Une personne malade est contagieuse 1 jour avant le début des symptômes et pendant 7 jours après. Les enfants sont contagieux pendant une période plus longue.

Recommandations pour le malade grippé

Un patient grippé à domicile doit respecter les comportements suivants afin de réduire les risques de transmission de la maladie:

- Rester à l'écart des autres, dans la mesure du possible dans une pièce isolée;
- Aérer régulièrement la pièce dans laquelle il se trouve;
- Réduire ses déplacements et limiter ses contacts avec l'entourage;
- Ne pas embrasser ni serrer les mains;
- Porter un masque de soins, à jeter chaque fois qu'il est humide, lorsqu'il est en présence d'une autre personne;
- Se couvrir la bouche avec un mouchoir à usage unique lors de chaque accès de toux et éternuement;
- Utiliser des mouchoirs à usage unique à jeter dans une poubelle munie d'un sac;
- Se laver régulièrement les mains au savon et à l'eau, le plus souvent possible, et plus particulièrement après mouchage, éternuements et toux.

Les enfants grippés ne pouvant porter de masque, la personne en contact rapproché avec eux doit en porter un.

Dans sa chambre, le malade doit pouvoir disposer:

- De mouchoirs en papier à usage unique;
- D'une poubelle munie d'un sac.

Recommandations pour l'entourage d'un malade

Contacts et visites:

- Si possible limiter les contacts avec le malade à une personne de l'entourage qui s'occupe de lui;
- Réduire les visites au strict minimum;
- Ne pas embrasser ni serrer les mains du malade;
- Eviter les visites d'enfants de moins de 15 ans, des personnes atteintes de maladies chroniques, immunodéprimées et des femmes enceintes;
- Port d'un masque de soins par le malade et le visiteur;
- Hygiène des mains rigoureuse: lavage au savon et à l'eau après tout contact avec le malade, les objets utilisés par lui, ses effets personnels ou les surfaces touchées par le malade (poignées de portes, meubles, chasse d'eau,...).

Nettoyage des objets utilisés par le malade:

- Lavage au savon et à l'eau chaude des objets utilisés par le malade;
- Au sein de la famille, ne pas partager serviettes, couverts et linge avec le malade;
- La vaisselle et le linge du malade peuvent être lavés en commun avec ceux de la famille.

Toute aggravation de l'état du malade doit être signalée immédiatement au médecin traitant.

Restez en bonne santé

Adoptez les règles élémentaires d'hygiène afin de limiter la propagation des virus:

- Lavez-vous les mains avec de l'eau et du savon fréquemment.
- Couvrez votre bouche et votre nez avec un mouchoir jetable (ou votre coude) lorsque vous toussiez ou éternuez.
- Jetez les mouchoirs usagés à la poubelle.
- Lavez-vous les mains après avoir toussé ou éternué. Utilisez de l'eau et

du savon ou une solution à base d'alcool.

- **Restez à la maison si vous êtes malade.**

Informez-vous

Connaître l'évolution de la situation est la meilleure préparation. Identifiez les sources crédibles sur lesquelles vous pouvez compter. Pendant la pandémie, disposer d'une information fiable et à jour est important.

- Une information fiable, pertinente et à jour est disponible sur Internet: www.ge.ch/pandemie
- Une autre source d'information fiable est l'Office fédéral de la santé publique (OFSP): www.pandemia.ch, 031 322 21 00.
- Ecoutez la radio, suivez les informations télévisées, lisez les journaux et autres sources d'information.
- Discutez avec votre médecin et les autorités sanitaires locales (Direction générale de la santé 022 546 50 40).

Traitements

Vaccins

Les vaccins contre la grippe protègent contre des souches spécifiques du virus. Un vaccin contre une grippe pandémique ne peut être produit tant que ce nouveau virus grippal n'a pas émergé et n'a pas été identifié.

Une fois que le nouveau virus grippal pandémique a été identifié, il faut attendre au minimum 6 mois (temps nécessaire pour le développement, les tests et la production) pour disposer d'un vaccin.

La Suisse ne dispose pas sur son sol d'industrie capable de produire un tel vaccin. Elle a donc passé des contrats avec les producteurs de vaccins, lui assurant de disposer, dès qu'un tel vaccin sera disponible, de réserves suffisantes pour vacciner l'ensemble de la population.

Est-ce que le vaccin contre la grippe saisonnière me protégera contre une grippe pandémique?

Non, il ne vous protégera pas contre une grippe pandémique.

Le vaccin actuel vous protège contre la grippe saisonnière.

Faites-vous vacciner contre la pneumonie afin d'éviter les complications liées à la grippe, si vous avez plus de 65 ans ou avez des maladies chroniques. Pour des conseils individualisés, parlez-en à votre médecin. Assurez-vous que vos vaccins et ceux des membres de votre famille sont à jour.

Traitement antiviral

Un certain nombre d'antiviraux permettent de traiter la grippe. Ces médicaments peuvent aider à prévenir l'infection chez certaines personnes à risque et raccourcir la durée des symptômes chez les personnes infectées.

La Confédération a stocké des antiviraux afin de traiter 25% de la population et l'ensemble du personnel soignant en contact avec des patients grippés.

En cas de pandémie, chaque canton en recevra un stock suffisant afin de traiter les personnes malades.

Questions - réponses

Comment se transmet le virus A H1N1 ?

A l'heure actuelle, les experts pensent que ce virus se transmet de la même manière que celui de la grippe saisonnière.

Les virus de la grippe se transmettent de personne à personne via les postillons et les gouttelettes produites par des personnes malades qui toussent ou éternuent. La transmission indirecte par les objets (ustensiles de cuisine par exemple) ou les surfaces environnementales (poignée de porte par exemple) est également possible.

Comment se protéger contre ce virus H1N1?

Actuellement, il n'existe aucun vaccin disponible pour se protéger. Toutefois, certains gestes simples permettent de limiter sa propagation:

Se couvrir la bouche et le nez avec un mouchoir jetable lors de toux et éternuements;

Se laver fréquemment les mains avec de l'eau et du savon;

Éviter de se toucher les yeux et le nez. C'est ainsi que les virus se propagent.

Éviter les contacts étroits/rapprochés avec les personnes malades.

Rester chez soi en cas de maladie.

Se tenir informé et respecter les recommandations des autorités sanitaires.

Que faire si vous tombez malade?

Si vous avez séjourné dans une région où l'épidémie de grippe A H1N1 est identifiée ou été en contact avec une personne malade et si vous souffrez de symptômes grippaux (fièvre, frissons, toux, maux de gorge, rhume, douleurs musculaires, maux de tête, et fatigue, voire nausées, vomissements et diarrhées), vous devez rester chez vous et prendre contact avec votre médecin traitant qui vous indiquera la marche à suivre.

Perspectives historiques

Le siècle dernier a connu 3 pandémies de grippe. Chacune d'entre elles a affecté l'ensemble du monde et a été causée par un virus entièrement nouveau. La pandémie de 1918 («grippe espagnole») a été particulièrement sévère. La pandémie de 1968 (grippe de Hong Kong) a été la moins meurtrière.

1918-1919	La plus sévère: environ 40 millions de morts dans le monde.
1957-1958	Modérément sévère: environ 2 millions de morts dans le monde.
1968-1969	La moins sévère: environ 1 million de morts dans le monde.

Il est impossible de prédire quand ont lieu les pandémies et leur sévérité.

Avec le virus A H1N1, le XXI^e siècle connaît sa première pandémie.

Pour plus d'informations :

- Visitez: www.ge.ch/pandemie
- Infoligne pandémie: 022 546 50 40

juillet 2009

(仮訳) 仏語原文は、後ろにあります。

新型インフルエンザ・ジュネーブ州対策本部 (OSIRIS 本部)

予防情報

新型インフルエンザ A H1N1 型

全般的注意と予防対策についてのメモ

【はじめに】

この情報メモは、皆様にジュネーブ州が新型インフルエンザのパンデミック (感染大流行) に見舞われた場合の危険につきより理解を深め備えを行っていただくためのもので、取り得る適切な対策につき示したものです。

疫学的状況は刻々と変化しており州対策本部からも更新情報を必要に応じ提供していますが、州政府・スイス連邦政府保健庁 (OFSP)・世界保健機関 (WHO) のウェブサイトなど日々機敏に更新される信頼のおける情報源を直接参照されることをお勧めします。医療と安全の分野の権限ある専門組織が現状に即し発信する明瞭で詳細な情報が、入手いただけます。また、新型インフルエンザウイルスや健康維持のための基本的注意事項についてより詳しく知りたい方は、ジュネーブ州政府公式サイト www.ge.ch/pandemie (特に「よくある質問 (FAQ)」の欄 (毎日更新)) をご覧ください。

こうして十分に知識を入手し備えを行えば、私たちは新型インフルエンザウイルスに立ち向かいその人的・経済的影響を軽減することができるのです。

なお、全世界次元のものであるWHOの警戒度フェーズが今後フェーズ6 (「パンデミック」) に引き上げられても、それに伴って、現在ジュネーブまたスイスの状況を基に皆様にお伝えしている注意事項が改訂されるということとは、当面はなりません。WHOのフェーズは全世界次元での状況についてのものであり、特定地域の状況についてのものではないからです。WHOフェーズがフェーズ6となっても、十中八九はジュネーブでは感染流行は見られないのではないかと考えられます。また、今拡がっているウイルスが引き起こす症状が、予想されていたものよりは軽いものと見られるということがあります。一方で、このウイルスへの免疫を既に持っている人はおらず、多くの人が感染し得るということがありますが、いずれにしても、新型インフルエンザの症状は通常の季節性インフルエンザの場合より重くなるということはないのではないかと見られています。

ジュネーブ州新型インフルエンザ対策本部

以下に、新型インフルエンザについての、全般的注意事項、また市民や事業所が取り得る予防策につき記しました。

現在の状況 (5月15日)

感染状況は日々変わっており、最新のデータを世界保健機関WHO (全世界の状況) またスイス連邦政府保健庁 OFSP (スイスの状況) のサイトから入手されることをお勧めします。5月15日現在、全世界で、感染確認例 7,520 件、死亡者 65 人 (34 ケ国) となっています。人から人への持続的な感染が見られる感染地域は主として、メキシコ、米国 (カリフォルニア、テキサス、ニューヨーク) となっています。ジュネーブでは感染確認例は皆無で、疑い例については検査を経て早々に非感染が判明しています。現時点までにスイス全土での感染確認例は 1 件のみ報告されており、この患者は快復し他者への感染はありませんでした。

新型インフルエンザ予防のための注意事項

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに因る呼吸器系の急性感染症です。ウイルスは、感染者がくしゃみや咳をする時に飛ぶ唾や飛沫により他者に感染します。また、唾や飛沫が付着した物に接触することでも感染し得ます。

新型インフルエンザから身を守るには、

簡単にできることでウイルスから身を守ることができます。

頻繁にそして丁寧に、流水と石鹸で手洗いする。

鼻をかむ時、咳・くしゃみをする時には、鼻と口をティッシュで覆う。ティッシュは使用後は捨てる。

感染者との至近距離での接触は避ける。感染者は外出せず自宅に留まり、マスクを着用する。

十分な睡眠、正しい食事、適度の運動により健康を保つ。

罹った人を自宅で介護するときは、

病人には他の人から離れた場所を用意する。

これが難しい場合は、他の人から 1m 以上離すようにする。

病人は、可能な限りマスクを着用する。咳・くしゃみのときのマスク着用は特に重要。

病人の世話をする人は自分の鼻と口を覆う。マスクは薬局・量販店で購入でき、また布があればこれを正しく洗浄して作ることが可能。

病人と接触したあとは、流水と石鹸で丁寧に手洗いする。

病人がいる場所の扉や窓を開け、風通しに努める。

家屋内を清潔に保つ。家庭用洗剤で可。

罹ったかなと思ったら

新型インフルエンザ感染地域に滞在してきて、次の症状がある場合は、家から外出せず、あなたのかかりつけ医に電話で連絡してください。

38 以上の発熱

悪寒、頭痛、筋肉・関節が痛い・だるい

風邪の諸症状、空咳、喉の痛み

目まい、呼吸の困難

腹の痛み、下痢、嘔吐

自宅に留まり、職場や人が多く集まる場所には行かないでください。

休養と十分な水分をとってください。

咳・くしゃみをするときはティッシュで鼻・口を覆ってください。

流水と石鹸で頻繁に丁寧に、特に咳・くしゃみのあと、手洗いしてください。

病院の救急外来に直行することはしないでください。

タミフルなどの抗ウイルス薬を自らの判断で服用することはしないでください。無益であり危険です。

予防の方法 (マスクについて)

薬局または量販店で購入できる衛生マスク(サージカルマスク=II型または IIR 型)は、ある種の状況下では、新型インフルエンザウイルスへの効果的な防御となります。マスクの着用は、自らのくしゃみ・咳・会話時に飛ぶ唾が周囲の人々を感染させることを避けるため感染者本人に、また家族や看護従事者など感染者と接触する人に、求められます。

一般市民に対しスイス連邦政府保健庁は一人当たり50枚のマスクの個人備蓄を行っており奨励していますが、非罹患患者によるマスク使用開始は、公衆衛生面の危険性についての厳密な分析評価を行った上でスイス保健当局から勧告されます。

感染地域に渡航する方のための注意事項

現在、スイス当局からは、いかなる渡航制限も発出されていません。最新の情報・注意事項については、www.safetravel.ch をご覧ください。海外滞在・渡航を計画中の方は、右サイトを参照してください。

新型インフルエンザ感染地域に滞在する方は、現地の保健当局からの注意事項に従い、現地メディアを通じて状況を把握してください。予防のためとしてタミフルを持って行き自分の判断で服用することは、危険でさえあり本当に感染した場合の抵抗力を弱めるので、無益です。

感染地域においては、前述の衛生上の諸注意事項を以下と併せ守ってください。

流水と石鹸で、定期的に手洗いする。

握手・キスは避ける。

鼻をかむ時、咳・くしゃみをする時には、鼻と口をティッシュで覆う。ティッシュは使用後は捨てる。ティッシュがないときは、唾の飛沫が飛ぶのを抑えるために、折り曲げた腕で覆う。

可能な限り、人が多く集まる場所は避ける。

可能な限り、インフルエンザに罹った人からは遠ざかる (または最低 1m の距離を置く)。

衛生マスク(サージカルマスク=II型または IIR 型)をスイスから持って行き、また現地で購入し、使用する。不特定多数の人が集まる場所に行くことが避けられない状況のと

きは、まずは現地当局が出す注意事項に留意し、もし行く場合にはマスクの使用が勧められる。

現地保健当局からの注意事項に従う

感染地域からスイスに戻った方へ、

感染地域からスイスに戻り7日以内にインフルエンザ症状が出た方は、電話で自分のかかりつけ医に連絡し、症状を正確に伝え、滞在した場所、すべての既往症につき説明するようお願いいたします。かかりつけ医がその後の対応を指示します。

事業所と事業活動継続のための計画

各事業所には、その事業活動の継続を確保するための計画を練り上げ、また既存の計画を状況に適合させ、結論を得る作業を進めるようお願いいたします。例えば、地場の中小企業にとっての留意事項は、関係者の用務出張も多い多国籍企業にとってのものとは異なるでしょう。各企業の医師あるいは労働安全の専門家らは、さまざまな個別事例に適した緻密な勧告を与えられるでしょう。スイス連邦政府保健庁 (OFSP) が作成した事業活動継続確保のための計画のモデルを、www.ge.ch/pandemie でご参照ください。

ジュネーブ州については、州の新型インフルエンザ対策本部にて、州当局自身の実施し得るものも含め、ジュネーブでの新型インフルエンザ状況の推移に応じ取られるべき諸施策につき取りまとめた行動計画を策定し、既に州内閣に提言してあります。なお、国境封鎖はいかなる公衆衛生状況の下にあっても実施されないものと想定されています。

世界保健機関 (WHO) のフェーズ

WHOは2009年、新型インフルエンザ警戒度フェーズ表記の見直し作業を行いました。新たな勧告や各国が作る準備・行動計画を円滑に整合させていくとの観点から、既存の6段階方式は維持することとなりました。

WHOフェーズの1～3は予防、特に取るべき方策の練り上げと行動計画の策定の段階というものです。一方、フェーズ4～6は、パンデミック(世界的流行)とその影響への対処を発動することが必要になったということを明瞭に示すものです。また、パンデミックの第一波の過ぎた後の時期は、原状回復作業がしやすくなる期間として位置づけられています。

現在のWHOフェーズは、フェーズ5

フェーズ1

自然界においては、常に動物の間、特に鳥類の間でインフルエンザウイルス感染が起きています。理論上はこれらウイルスはパンデミックウイルスに変異し得ますが、このフェーズでは、動物の間のウイルスの人間への感染例は全く検出されていません。

フェーズ2

家畜また野生動物の間のインフルエンザウイルスの人間への感染が見られ、このことからパンデミックへの潜在的危険があるものと考えられる段階です。

フェーズ3

動物インフルエンザウイルスまたヒト・動物インフルエンザウイルスの間での遺伝子交配を経たウイルスに因る散発的また小規模の感染が人間の間で発生するが、地域社会における感染拡大に至る効率的な人間から人間への感染は起きていません。人間から

人間への限定的な感染が、例えば感染者とこの感染者の看護に無防備であたった人との間で密接な接触があったときなど、一定の状況の下で発生し得ます。いずれにせよ、こうした非常に特別な条件の中での限定された感染があることが、ウイルスが人間の間でパンデミックを引き起こすのに必要な感染力に達したということを示すものとは言えません。

フェーズ4

この段階の特徴は、動物インフルエンザウイルスまた動物・ヒトインフルエンザウイルスの間での遺伝子交配を経て地域社会における感染拡大を引き起こす能力を獲得したウイルスが、人間と人間の間で感染していることが証明されたということです。ウイルスが地域社会次元での持続的な感染拡大を引き起こす能力を有したということは、パンデミック発生の危険性へと高まっていくサインです。フェーズ4段階に入ったのではないかとの懸念を有する、またその確証を得た各国は、WHOと共同して状況を評価し、自国のインフルエンザ阻止緊急作戦の実施が妥当であるかにつき決定するために、大至急WHOと協議しなければなりません。なお、フェーズ4は、パンデミックへの危険性の重要な上昇を示す段階ですが、パンデミックの到来が避けられなくなったということを意味するものではありません。

フェーズ5 (現在のフェーズ)

この段階の特徴は、WHOが設定している世界区分のうちの1区分内の2ヶ国以上において人間と人間の間でのウイルスの拡散があることです。未だ世界の国々の大部分は感染していなくとも、フェーズ5の宣言は、パンデミックは急迫しており、予定されていた種々の状況緩和対策の組織・展開・施行を完了するための時間はごく僅かしか残されていないということを示す警告信号です。

フェーズ6

パンデミック期とも呼ばれるこの段階の特徴は、フェーズ5とされるための判断基準に加え、別の1つのWHO世界区分内でも少なくとも1ヶ国において地域社会次元での感染拡大が生じたということにあります。フェーズ6の宣言は、世界でパンデミックが進んでいるということを示すものです。

ポスト・パンデミック期

パンデミックのピークを過ぎた時期においては、適切な監視体制を有する国々の大部分では、新型インフルエンザ罹患件数は低下していくでしょう。この時期には、新型インフルエンザの活動が減少に転じたものと見られるでしょうが、次なる感染拡大の波が到来するかどうか、各国はこの第二の波への備えをしなければならないのかどうかは、この時点ではまだわかりません。数ヶ月に及んだ前のパンデミックの波が終わり、ひとたびインフルエンザの活動程度が低下し始めた際には、情報発信作業の主眼は、次の波が到来し得ることを念頭に置いて情報を修正することへと移行します。パンデミックの波は数ヶ月の間隔で再来するので、即座に警戒解除の信号を出してしまうことは早計なのです。

ポスト・パンデミック期においては、新型インフルエンザの活動は通常の季節性インフルエンザで観察される水準に戻り、そのウイルスは通常の季節性のA型インフルエンザのウイルスと同様の行動をとるはずで、この段階では、監視は維持しつつ、準備・行動計画を実経験に即して改訂していくことが重要です。このために原状回復と評価を集中的に行うことが必要です。

豚肉は食べてもよいか、

新型インフルエンザ A H1N1 が拡がる中で、豚の体内には新型インフルエンザウイルスがいるのではないかと、また豚肉や豚肉加工品は大丈夫なのかという心配が出るところです。現在知られるところでは、このウイルスは豚加工肉や豚肉加工品を口から摂ることで人間に伝染することはありません。

豚肉を焼くための通常の熱処理 (例 芯部の温度 70 °C で火を通す。)により、生肉の内部にウイルスがいても全て不活性化します。

豚肉および豚肉加工品は、世界保健機関 (WHO)、国連食糧農業機関 (FAO)、コーデックス食品委員会 (Codex)、国際獣疫機関 (OIE) が勧告した規準を遵守して処理されている場合は、感染源とはなりません。

追加情報

市民の皆様は、ジュネーブ州の公式サイト www.ge.ch/pandemie (「よくある質問 (FAQ)」は毎日更新) また州保健局のテレフォンサービス (022-546-50-40) にて、新型インフルエンザについての情報、ならびに公衆衛生に関する基礎的な注意事項を簡単に入手していただけます。

また、以下のスイス連邦保健庁のサイト・電話番号でも、様々な情報や助言が入手可能です。

= パンデミックについて www.pandemia.ch

= インフルエンザについて www.bag.admin.ch/influenza

= 緊急電話番号 031-322-21-00



REPUBLIQUE ET CANTON DE GENEVE
État-major opérationnel OSIRIS

OSIRIS ÉTAT-MAJOR OPÉRATIONNEL

Genève, le 13 mai 2009

Rapport mensuel
Avis de précaution
Message urgent

GRIPPE A H1N1

Recommandations générales et mesures de précaution

Madame, Monsieur,

Cette note d'information a pour objectif de vous aider à mieux comprendre le risque que pourrait représenter l'éventuelle survenue d'une pandémie de grippe A H1N1 dans notre canton, et de vous aider à sa préparation. Elle présente les actions de bon sens qui peuvent être entreprises dans ce cadre..

La situation épidémiologique évoluant rapidement, des mises à jour vous seront envoyées en cas de besoin. Toutefois, nous vous encourageons à vous référer directement aux sources d'information fiables et dont la réactivité de la mise à jour est quotidienne, tels que les sites Internet des autorités cantonales, de l'OFSP et de l'OMS.

L'intérêt de tels envois est de vous permettre de recevoir des informations claires et détaillées, fournies et actualisées par les instances médicales et sécuritaires compétentes.

N'hésitez pas, en cas de besoin, à vous renseigner plus en détail sur le virus et sur les recommandations de base en matière d'hygiène en vous connectant sur le site officiel de l'Etat de Genève

www.ge.ch/pandemie (nombreuses FAQ mises régulièrement à jour).

Ainsi bien informés et préparés, nous pourrons ensemble faire face à la propagation de ce virus et atténuer ses conséquences humaines et économiques.

Enfin, notez que l'annonce par l'OMS d'un passage mondial en phase 6 (pandémie déclarée), n'implique à court terme, pour Genève et la Suisse, aucune modification des recommandations qui vous sont transmises aujourd'hui. Le descriptif des phases s'applique à la situation mondiale et non locale. Il est dès lors fort probable, que malgré la phase 6, Genève ne connaisse toujours pas de malades. En outre, le virus qui circule actuellement semble être d'une sévérité moindre qu'attendu. En revanche, toute la population y est

sensible et un très grand nombre de personnes pourraient être atteintes. Elles ne devraient cependant pas être plus malades qu'avec une grippe saisonnière.

L'état-major opérationnel OSIRIS

Vous trouverez ci-après différentes recommandations générales et informations sur les mesures de précaution pouvant être prises dans le cadre de la préparation de la population et des entreprises à la pandémie de grippe A H1N1 : (ce serait plus lisible de numérotter les chapitres ci-dessous ou alors de supprimer l'index...)

- ♦ **SITUATION SANITAIRE A CE JOUR**

- ♦ **CONSEIL POUR EVITER LA GRIPPE A(H1N1)**

- Comment puis-je me protéger contre la grippe A(H1N1)?
- Comment prendre en charge à la maison une personne malade?
- Que faire si je pense avoir contracté la grippe A(H1N1)?
- Que faire si j'ai besoin de soins médicaux?

- ♦ **MOYENS DE PREVENTION**

- ♦ **RECOMMANDATIONS POUR LES VOYAGEURS**

- Recommandations de voyage
- Les voyageurs séjournant au Mexique et les citoyens suisses y résidant :
- Les voyageurs revenant d'un séjour dans les zones affectées

- ♦ **INFORMATIONS SUPPLEMENTAIRES**

- ♦ **ENTREPRISES ET BUSINESS CONTINUITY PLAN**

- ♦ **PHASES OMS**

- ♦ **CONSOMMATION DE VIANDE DE PORC**

OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS - OSIRIS

SITUATION SANITAIRE A CE JOUR

La situation sanitaire évoluant quotidiennement, nous vous encourageons à vous référer aux sites de l'OMS (situation mondiale) et de l'OFSP (situation en Suisse) pour obtenir les dernières données.

A ce jour (15 mai), 7'520 cas de grippe A H1N1 ont été annoncés et 65 personnes sont

décédées dans le monde (34 pays). Les zones affectées, où l'on trouve une propagation interhumaine soutenue, sont principalement le Mexique et les États-Unis (Californie, Texas et New-York). Aucun cas avéré n'a été détecté à Genève et les cas suspects ont rapidement été exclus. Un seul cas avéré a été annoncé en Suisse jusqu'à ce jour. La personne malade est guérie et n'a pas transmis son infection.

CONSEIL POUR EVITER LA GRIPPE A(H1N1)

La grippe est une maladie infectieuse aiguë du système respiratoire, due aux virus Influenza. La transmission des virus se fait par les postillons ou les gouttelettes émises par une personne malade, en éternuant ou en toussant. Une transmission indirecte par l'intermédiaire de surfaces contaminée par des postillons ou gouttelettes est également possible.

Comment puis-je me protéger contre la grippe A(H1N1)?

Les mesures générales applicables à la grippe permettent de se protéger contre ce virus :

- ♦ Se laver les mains à l'eau et au savon fréquemment et soigneusement.
- ♦ En cas d'éternuement ou de toux, se couvrir la bouche et le nez, utiliser un mouchoir en papier et les jeter après usage.
- ♦ Éviter tout contact étroit avec des personnes malades. Ces personnes devraient rester chez elle et porter un masque.

Avoir une bonne hygiène de vie, à savoir dormir suffisamment, s'alimenter correctement et conserver une activité physique.

Comment prendre en charge à la maison une personne malade?

- ♦ Essayer de lui réserver un endroit de la maison à l'écart. Si c'est impossible, maintenir une distance d'au moins un mètre entre elle et les autres occupants.
- ♦ La personne malade devrait autant que possible porter un masque. Cela est d'autant plus important qu'elle tousse.
- ♦ Se couvrir le nez et la bouche lorsqu'on s'occupe de la personne malade. On peut acheter des masques dans le commerce ou les fabriquer à l'aide de tissus facilement disponibles du moment qu'on les nettoie ou qu'on les élimine correctement.
- ♦ Se laver les mains soigneusement à l'eau et au savon après chaque contact avec la personne malade.
- ♦ Essayer de bien aérer la zone où se trouve la personne malade. Ouvrir les portes et fenêtres pour faire circuler l'air.
- ♦ Maintenir l'environnement propre à l'aide de produits ménagers facilement disponibles.

Que faire si je pense avoir contracté la grippe A(H1N1)?

Restez à la maison et appelez votre médecin si vous revenez d'un pays touché par la grippe A(H1N1) et souffrez des symptômes suivants :

- ♦ Fièvre supérieure à 38°C ;
- ♦ Frissons, maux de tête, douleurs musculaires et articulaires ;
- ♦ Rhume, toux sèche et maux de gorge ;
- ♦ Vertiges ou difficultés respiratoires ;

- ♦ Douleurs abdominales, diarrhées ou vomissements .

Restez chez vous et évitez de vous rendre sur votre lieu de travail ou à des rassemblements. Reposez-vous et absorbez des liquides en suffisance .

Couvrez-vous le nez et la bouche avec un mouchoir en papier lorsque vous toussiez et que vous éternuez.

Lavez-vous les mains à l'eau et au savon fréquemment et soigneusement, surtout après avoir toussé ou éternué.

Ne vous rendez pas immédiatement au service des urgences de l'hôpital. Ne prenez pas de médicaments antiviraux, comme par exemple Tamiflu, de votre propre initiative, cela est inutile et dangereux.

MOYENS DE PREVENTION

Les masques d'hygiène (chirurgicaux de type II ou IIR), disponibles en pharmacie ou dans les grandes surfaces, protègent efficacement contre le virus de la grippe, dans certaines situations. Leur port est recommandé pour les malades afin d'éviter qu'ils contaminent leur entourage et leur environnement par leurs éternuements, leur toux ou leurs postillons ainsi que pour les personnes qui sont en contact avec eux (membres de la famille, personnel soignant). L'Office fédéral de la santé publique a incité la population à se constituer une réserve individuelle de 50 masques par personne. Le port de ce masque par les personnes non malades ne sera néanmoins recommandé par les autorités sanitaires suisses qu'après une évaluation précise du risque sanitaire.

RECOMMANDATIONS POUR LES VOYAGEURS

A l'heure actuelle, aucune restriction de voyage n'est en vigueur. Vous trouverez l'ensemble des informations et recommandations à jour sur le site www.safetravel.ch. Nous vous conseillons de le consulter lorsque vous planifiez vos séjours/ déplacements à l'étranger.

Si vous séjournez dans un pays où sévit l'épidémie de grippe A H1N1, conformez-vous aux recommandations des autorités sanitaires locales et tenez-vous informé au moyen des médias locaux. Il est inutile de prendre dans ses bagages du Tamiflu ou de le prendre à titre prophylactique car cela pourrait même être dangereux et affaiblir le taux de résistance en cas de contamination réelle.

Dans les pays touchés par l'épidémie, les recommandations en matières d'hygiène restent pleinement applicables, assorties des mesures suivantes :

- ♦ se laver régulièrement les mains avec de l'eau et du savon
- ♦ éviter de se serrer la main et de s'embrasser ;
- ♦ se couvrir la bouche et le nez avec un mouchoir en papier et le jeter après usage en cas de toux ou d'éternuement ; à défaut, se servir de son coude pour limiter les postillons;
- ♦ éviter, dans la mesure du possible, les rassemblements de population;
- ♦ se tenir éloigné, dans la mesure du possible, des personnes souffrant de grippe (ou conserver une distance minimale d'un mètre) ;
- ♦ utiliser les masques d'hygiène (masques chirurgicaux de type II ou IIR) emmenés de Suisse ou achetés sur place. En fonction des consignes locales, ceci est recommandé lorsque la participation à de rassemblements de population est inévitable ;
- ♦ suivre les recommandations des autorités sanitaires du pays.

Les voyageurs revenant d'un séjour dans les zones affectées

Les voyageurs revenant des zones affectées et qui présentent des symptômes grippaux et de la fièvre dans les 7 jours après leur retour de voyage, sont priés de contacter leur médecin par téléphone, en précisant les symptômes, l'endroit de séjour et toute maladie préexistante. Leur médecin leur indiquera les consignes à suivre.

ENTREPRISES ET BUSINESS CONTINUITY PLAN

Les entreprises sont invitées à poursuivre l'élaboration / adaptation/ finalisation de leurs plans de continuité et à adopter les mesures adaptées à leurs activités. Une petite PME locale n'aura pas les mêmes précautions à prendre qu'une multinationale où les collaborateurs sont appelés à voyager. Le médecin ou le spécialiste de la sécurité du travail (MSST) de chaque entreprise concernée est en mesure d'élaborer les recommandations adaptées à chaque cas particulier.

Vous trouverez sur le site Internet www.ge.ch/pandemie un lien vers le modèle de business continuity plan élaboré par l'OFSP.

Au niveau cantonal, l'état-major opérationnel OSIRIS prépare les différents concepts d'engagement et informe le Conseil d'Etat, lequel dispose d'un certain nombre de mesures pouvant être prises, en fonction de l'évolution de la situation à Genève.

Quelle que soit l'évolution de la situation sanitaire, les frontières devraient rester ouvertes.

PHASES OMS

Phases OMS d'alerte à la pandémie actuellement en vigueur

Dans la révision 2009 de la description des phases, l'OMS a conservé la formule en six phases pour pouvoir incorporer plus facilement les nouvelles recommandations et stratégies dans les plans nationaux de préparation et d'action existants..

Les phases 1 à 3 concernent la préparation, notamment les activités de développement des moyens d'action et de planification des interventions, tandis que les phases 4 à 6 indiquent clairement la nécessité d'engager des efforts de riposte contre la pandémie et d'atténuation de ses effets. En outre, les périodes qui suivent une première vague pandémique sont explicitées afin de faciliter les activités de remise en état qui lui font suite.

La phase OMS d'alerte à la pandémie actuellement en vigueur est la phase 5.

Phase 1: dans la nature, les virus grippaux circulent continuellement chez les animaux, en particulier chez les oiseaux. Bien que ces virus puissent théoriquement évoluer en des virus à caractère pandémique, dans cette phase, aucun cas d'infection chez l'homme due à un virus circulant chez les animaux n'a été signalé.

Phase 2: on sait qu'un virus grippal animal circulant chez des animaux domestiques ou sauvages a provoqué des infections chez l'homme et est de ce fait considéré comme constituant une menace potentielle de pandémie.

Phase 3: un virus grippal réassorti animal ou humain animal a été à l'origine de cas sporadiques ou de petits groupes de cas de maladie dans la population, mais n'a pas entraîné de transmission interhumaine suffisamment efficace pour maintenir les flambées à l'échelon communautaire. Une transmission interhumaine limitée peut se produire dans certaines circonstances, par exemple lorsqu'il y a un contact étroit entre une personne infectée et un dispensateur de soins non protégé. Toutefois, une transmission limitée dans ces conditions très précises n'indique pas que le virus est parvenu au degré de transmissibilité nécessaire pour provoquer une pandémie chez l'homme.

Phase 4: elle se caractérise par la transmission interhumaine vérifiée d'un virus grippal réassorti animal ou animal-humain capable de provoquer des «flambées à l'échelon communautaire». L'aptitude du virus à provoquer des flambées durables de la maladie dans une communauté est le signe d'une majoration importante du risque de pandémie. Tout pays qui soupçonne un tel événement ou qui l'a vérifié, doit de toute urgence consulter l'OMS afin que la situation puisse être évaluée conjointement et que ce pays puisse prendre une décision si la mise en œuvre d'une opération rapide d'endiguement de la pandémie se justifie. La phase 4 indique une majoration importante du risque de pandémie mais ne signifie pas nécessairement qu'une pandémie est inéluctable.

Phase 5 (actuelle) : elle se caractérise par une propagation interhumaine du virus dans au moins deux pays d'une Région de l'OMS. Si la plupart des pays ne sont pas touchés à ce stade, la déclaration de la phase 5 est un signal fort indiquant qu'une pandémie est imminente et qu'il reste peu de temps pour finaliser l'organisation, la diffusion et la mise en œuvre des mesures d'atténuation prévues.

Phase 6: dite aussi phase de pandémie, elle se caractérise par des flambées à l'échelon communautaire dans au moins un pays d'une autre Région de l'OMS en plus des critères définis à la phase 5. La déclaration de cette phase indiquera qu'une pandémie mondiale est en cours.

Période post critique: Au cours de la période suivant le pic de la pandémie, dans la plupart des pays disposant d'une surveillance adéquate, le nombre de cas de la maladie aura chuté au dessous de celui observé lors du pic. Cette période indique que l'activité pandémique semble décroître; toutefois, on ne sait pas encore s'il y aura d'autres vagues et les pays devront se préparer à une deuxième vague. Les pandémies antérieures ont été caractérisées par des vagues d'activité s'étalant sur des mois. Une fois que le degré d'activité de la maladie amorce une chute, une tâche de communication essentielle consistera à tempérer cette annonce compte tenu de l'éventualité d'une autre vague. Les vagues pandémiques peuvent être espacées de plusieurs mois et un signal immédiat de «relâchement» serait prématuré.

Au cours de la **période post pandémique**, l'activité de la grippe aura retrouvé les niveaux normalement observés pour la grippe saisonnière. Le virus pandémique devrait se comporter comme un virus de la grippe A saisonnière. À ce stade, il est important de maintenir la surveillance et d'actualiser les plans de préparation et d'action en conséquence. Une phase intensive de remise en état et d'évaluation peut être nécessaire.

CONSOMMATION DE VIANDE DE PORC

Alors que la grippe A(H1N1) se propage, on s'inquiète de la présence éventuelle du virus associé chez le porc et de la salubrité de la viande de porc et des produits à base de porc. D'après les connaissances actuelles, les virus grippaux ne se transmettent pas à l'homme par ingestion de viande de porc transformée ou d'autres produits alimentaires élaborés à partir de viande de porc.

Les traitements thermiques habituellement utilisés pour cuire la viande (température à cœur de 70° C/160° F, par exemple) inactivent tout virus éventuellement présent dans les produits carnés crus.

La viande de porc et les produits à base de porc, s'ils sont manipulés conformément aux bonnes pratiques d'hygiène recommandées par l'OMS, la FAO, la Commission du Codex Alimentarius et l'OIE, ne sont pas source d'infection.

INFORMATIONS SUPPLEMENTAIRES

Le public peut se renseigner efficacement sur la maladie et sur les recommandations de base en matière d'hygiène en se connectant sur le site officiel de l'Etat de Genève

www.ge.ch/pandemie (nombreuses FAQ mises quotidiennement à jour)

ou en appelant l'infoline de la direction générale de la santé au

022 546 50 40.

Vous pouvez également trouver des informations et conseils divers auprès des entités de référence suivantes:

- ♦ Site Internet de l'OFSP sur la pandémie : www.pandemia.ch
- ♦ Site Internet de l'OFSP sur l'Influenza : www.bag.admin.ch/influenza/
- ♦ N° d'urgence de l'office fédéral de la santé publique : **031 322 21 00**